

第32回

うつのみやこども賞だより

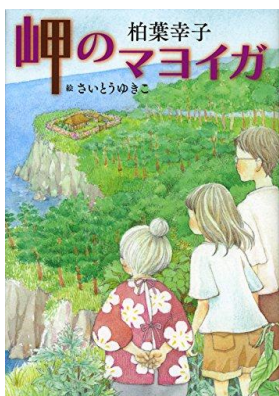
平成27年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『岬のマヨイガ』

柏葉幸子/著（講談社）



～読んだ本の感想より～

- 萌花とゆりえがキワさんから、故郷ではないけれどもその土地を愛し、生きていくことを教えられ。その三人が、その土地を守りぬこうとしているのが、かっこよかった。
- 私も自分が住んでいるこの宇都宮をもっと知りつくして、愛そうと思いました。一度でいいのでカップやざしきわらしに会ってみたいとますます思った。
- しん災があってもくじけずにいた狐崎の人達はすごいと思いました。
- はじめて会った人と家族になれる勇気がすごいと思った。
- 不思議な人たちに囲まれた生活も楽しそうだった。
- 最後にもらっていた手紙になんとかいてあるかきになった。

『丸天井の下の「ワーオ！」』

今井恭子/著（くもん出版）

- 口ですらすらとまちがえずに物語を作るマホにびっくりしました。マホが近くにいてくれたら楽しいだろうなあと思いながら読みました。
- 宿題が、主人公にディスレクシアのせいで考えたこともなかった、作家になるという夢をあたえるところが、おもしろかった。
- 自分がやりたいことを見つけたとき、あきらめずに努力することが大切だと気づいた。夢を叶えるために必要だと思うことができなくても、別のことでおぎなえればいいのだと思った。
- 本の中に物語があるということが面白いと思いました。

『川床にえくぼが三つ』

にしがききょうこ/著（小学館）

- いつもと違う生活の中での、文音の感じ方が心に残った。その国の人達には当たり前のようなことでも、色々な事を感じ、考えているのが伝わった。
- 自然と、自分も旅行に行っているような気がして楽しく本を読めました。
- 思いやりには思いやりでかえしてくれるってすごくいいなと思いました。
- 文音が足あとの化石を見つけたら、はなの仲が悪くなってしまった時、人間って、弱くてむずかしい生き物だなと改めて思った。

『グッドジョブガール』 草野たき/著（ポプラ社）

- 自分たちのことを「悪友」といって自分の本音をかくし続けていた三人だけドチアダンスをやって、自分の本当の気持ちを伝えられるようになり、悪友から卒業できたのがいいと思いました。
- やはり友達づきあいは面どくさいところもあるけれど、相談できる人がいるだけで良いことだと感じることができました。
- 友達に、自分のそのままを見せることの大切さを感じた。
- 悪友を作りたいとおもったし、あかりたちのチアも見てみたいと思った。